

1. 授業の概要(ねらい)

アジア地域は民主化と市場経済化の影響を、いま一番多く受けている地域といえるかもしれない。アジア地域は、東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジアに分かれ、約50の国家・地域からなっている。その人口は世界の約60%、面積は約23%を占める。食糧に関しては、アジア地域は米の生産量は世界の約90%、小麦の生産量は約45%、トウモロコシは約30%を占め、農業の重要な生産地である。工業に関しては、既に発展を遂げている新興工業経済地域(NIES)、大国であるインド、中国、そして東南アジア地域のCLMV諸国(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)が近年は相対的に高い経済成長を遂げている。これらアジア経済の高い潜在力、その豊富な労働力と内需に魅かれて、多くの日系企業がアジア地域へと進出している。日本の対外貿易に関し、アジア地域は輸出入それぞれ約40%を占めている。日本はアジア地域の一員であると共に、アジア地域の諸国は日本の重要なパートナーである。

授業では、アジア地域諸国の概要を社会経済事情やデータから紹介しつつ、時には、諸君との意見交換や議論を通じて、一緒に今後の“アジア経済のヴィジョン”を考えたい。必要に応じ、受講生との日程を相談しつつ外部講師を招聘し、実際のアジアで起こっているダイナミックな国際化を学びたい。近い将来、卒業後に何ができるかを考える“学びの機会”を設けたい。

2. 授業の到達目標

授業で学んだアジア経済に関する知識をもとに、アジアが持続的な発展を遂げるために、「何が大切か、日本はアジア地域の一員として何ができるか」を自分の言葉で表現できることを目指す。

3. 成績評価の方法および基準

成績は平常点(授業貢献や提出物)とレポートの結果により、総合的に評価する。詳細は、最初の講義で説明する。

4. 教科書・参考文献

教科書

アマルティア・セン、ジャン・ドレーズ、湊 一樹翻訳 (インド、中国他経済事情)
(2015)『開発なき成長の限界——現代インドの貧困・格差・社会的分断』 明石書店
丸川 知雄、梶谷 懐 (2015)『超大国・中国のゆくえ4 経済大国化の軌みとインパクト』 東京大学出版会
柳澤 悠 (2014)『現代インド経済—発展の淵源・軌跡・展望』 名古屋大学出版会
水島 司、加藤 博、久保 亨、島田 竜登編著 (2015)『アジア経済史研究入門』 名古屋大学出版会
菊池正 (2019)『ベトナムの経済読本 -発展の光と陰-』 一藝社
朽木 昭文、馬田 啓一、石川 幸一 (2015)『アジアの開発と地域統合 新しい国際協力を求めて』 日本評論社
浦田 秀次郎、可部 繁三郎、牛山 隆一 (アジア地域に関する経済統合)
(2015)『ASEAN経済統合の実態』 文眞堂
深沢 淳一、助川 成也 (2014)『ASEAN大市場統合と日本: TPP時代を日本企業が生き抜くには』 文眞堂
みずほ総合研究所 (2018)『図解 ASEANを読み解く 第2版: ASEANを理解するのに役立つ70のテーマ』 東洋経済新報社
大塚啓二郎 (国際協力)
(2014)『なぜ貧しい国はなくなるのか 正しい開発戦略を考える』 日本経済新聞出版社
黒崎 卓、大塚啓二郎編著 (2015)『これからの日本の国際協力 ビッグ・ドナーからスマート・ドナーへ』 日本評論社
辻原康夫 (情報・データ)
(2010)『新版国旗と国名由来図典』 出窓社
二宮書店編集部 (2021)『データブック オブ・ザ・ワールド2021』 二宮書店

参考文献

外務省 ODA白書 外務省HP内
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo.html>
内閣府 経済財政白書 内閣府ホームページ 内閣府ホームページ
<http://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html#chiiki>
世界銀行(WB) 世界銀行(WB)の報告書
“Global Economic Prospects
(『世界経済の見通し』)” 世界銀行(WB)ホームページ
<https://www.worldbank.org/en/publication/global-economic-prospects>
アジア開発銀行(ADB) アジア開発銀行(ADB)の各国情報
“Countries and regions of ABD” アジア開発銀行(ADB)ホームページ
<http://www.adb.org/countries/main>
笹本武治、川野重任 (1968)『台湾経済総合研究上・下』 アジア経済調査研究双書
加賀美充洋 (2013) ミャンマーの夜明け 日本経済評論社
青木昌彦 著
永易浩一 訳 (1992) 日本経済の制度分析 筑摩書房
青木昌彦 著
瀧澤弘和、谷口和弘 訳 (2003) 比較制度分析に向けて NTT出版
青木昌彦、奥野正寛 編 (1996) 経済システムの比較制度分析 東京大学出版会

5. 準備学修の内容

アジア地域に関する新聞記事や、関心がある書籍を読み、知的好奇心を日頃から培って欲しい。

6. その他履修上の注意事項

授業は講義形式で行うが、自主レポートの提出など積極的な授業への参加を歓迎する。一度も休まない意志を持つ学生の受講を期待する。

○毎回課題を出すので、しっかりとやってくる(次週提出)。

○内容が悪い課題は、再提出を求める。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス:アジア地域の概要紹介
- 【第2回】 アジアの大国(I):資本主義を進める中国、インド
- 【第3回】 アジアの大国(II):資本主義を進める中国、インド
- 【第4回】 新興工業経済地域(NIES)の経済発展(I)
- 【第5回】 新興工業経済地域(NIES)の経済発展(II)
- 【第6回】 ASEAN概要と構成国の紹介(I):インドネシア、タイ
- 【第7回】 ASEAN概要と構成国の紹介(II):CLMV(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)
- 【第8回】 ASEAN概要と構成国の紹介(III):フィリピン、マレーシア
- 【第9回】 ASEAN概要と構成国の紹介(IV):シンガポール、ブルネイ
- 【第10回】 ASEANの経済発展:投資と貿易
- 【第11回】 ASEANの工業発展(I)現状、都市化、消費社会の形成
- 【第12回】 ASEAN経済統合とASEAN経済共同体の形成(I):創設、展望と課題
- 【第13回】 ASEANに進出する日系企業:国際ビジネスの協働
- 【第14回】 議論・意見交換:アジア経済の魅力と課題
- 【第15回】 まとめ